修学旅行記

二学年主任　上野　裕之

六月十三日（火）から十六日（金）に三泊四日の日程で、二年生の修学旅行が実施されました。本年度も関東一甲会の御支援をいただき、本校卒業生が活躍される関東一十三カ所の職場訪問や東京大学・東京工業大学・早稲田大学・お茶の水女子大学の四大学のキャンパス見学を予定通り実施することができました。梅雨時期ということもあり、屋外での研修を心配しましたが、幸い初日以外は天候に恵まれ気持ちよく研修を行うことができました。

以下、四日間の行程を簡単に振り返ります。

【一日目】

今年は学校周辺の交通渋滞を回避するため、始めて中央駅西口から出発しました。迷子を心配しましたが、無事八時二十分に出発することができました。十二時半、羽田に着き、はとバスで上野へ。国立博物館、国立科学博物館、西洋美術館、上野動物園の見学をしました。前日にお父さんになったばかりのリーリーを見ることが出来て大満足でした。夕食は、お台場のアクアシティでラーメンとピザのはしごをしたり、屋形船とベイブリッジの夜景を見ながら、ローストビーフ丼とバンケーキを食べたりしました。

【二日目】

朝食バイキングのあと職場体験学習と都内自主研修へ。東京の人混みに圧倒されながら先輩方の職場へ到着。先輩方が活躍される各企業・大学等で充実した職場体験学習を行うことができました。自主研修ではテレビで見たことのある東京の高層ビルを満喫しました。夕方の四季劇場は「ノートルダムの鐘」の鑑賞。本物の役者さんたちの声量に圧倒され、あっという間の三時間でした。テレビや映画では味わうことの出来ない、観客と演者の一体感もすばらしいものでした。

【三日目】

午前中は、大学のキャンパス訪問。本校卒業生の案内で、大学説明や施設見学。大きな図書館にはびっくり。先輩方の優しさにもびっくりでした。

午後は待ちに待った東京ディズニーリゾート。お土産を買ったり、アトラクションに乗ったり、パレードを見たり、夢のような時間を過ごしました。ディズニースタッフの神対応に感心しきりでした。

【四日目】

最終日は浅草地区の散策。仲見世ではメロンパン、人形焼き、世界一？濃い抹茶ジェラートを食べて、浅草寺のお参りをしました。その後、羽田空港でお土産上げを買って四日間の旅は無事終わりました。

今回の旅行中、東京でお仕事をされている多くの方々と出会い、子どもたちはいろいろなことを感じ取ってくれました。保護者の方への感謝の言葉も多く聞かれました。成長の見られる生徒もいました。関東一甲会を始め、卒業生の皆さん、保護者の皆様、そして、今回の修学旅行に携ってくださった全ての方々に、心から感謝し、御礼を申し上げます。

平成三十年度
大学入試センター試験実施要項発表

進路指導部

平成二十九年六月五日、独立行政法人大学入試センターは平成三十年一月に実施するセンター試験の実施要項を発表した。実施方法については、基本的には昨年と同様である。「地歴・公民」は十分の解答用紙回収時間をはさんで百三十分の連続実施、「理科」については、理科①を受験する場合、基礎科目二科目を六十分の中で連続実施、理科②の基礎を付さない科目を二科目受験する場合は、十分の解答用紙回収時間をはさんで百三十分の連続実施（一科目選択の場合は六十分）となる。以下、実施要項から重要なポイントを挙げる。一昨年度のセンター試験から全科目が新教育課程対応の試験となり、本年度はその三年目となる。そこで、各大学が発表する入試要項には十分に目を通し出願する必要がある。三年生はもちろん、一、二年生も各大学のホームページ等で情報を確認しておきたい。

1　出願期間・出願方法等

(1)　出願期間は、平成二十九年九月二十六日（火）から十月六日（金）までとする。

(2)　出願の方法：高等学校を平成三十年三月卒業見込みの者は、志願票に検定料受付証明書を添えて、在学する学校の校長を経由して、郵送により提出するものとする。

(3)　入学志願者は、受験教科名及び科目数等について、次の事項を出願時に申し出るものとする。①受験する教科名②地理歴史及び公民並びに理科の試験時間において一又は二科目を選択する場合のそれぞれの受験科目数③理科についての科目選択の方法

(4)　大学入試センター試験の成績の通知を希望する入学志願者は、出願時に併せて申し出るものとする。

2　検定料

(1)　三教科以上受験する場合は一八、〇〇〇円である。

(2)　検定料の払込期間は、平成二十九年九月一日（金）から十月六日（金）までとする。

3　受験票の送付

(1)　大学入試センターは、出願を受理した入学志願者に対し、平成二十九年十月下旬までに確認はがきを送付し、志願票記入事項の登録内容についての確認を求める。

(2)　その後、大学入試センターは、出願を受理した入学志願者に対し、受験番号、試験場等を記載した受験票及び大学入試センター試験成績請求票等を、平成二十九年十二月中旬までに送付する。

4　試験実施期日等

(1)　大学入試センター試験の実施期日は、平成三十年一月十三日（土）及び十四日（日）。

(2)　時間割は別表の通りである。

試験日	試験教科・科目		試験時間
第1日	地理歴史	「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」	2科目選択　9：30～11：40 1科目選択　10：40～11：40
	公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済」『倫理、政治・経済』	
	国語	『国語』	13：00～14：20
	外国語	『英語』『ドイツ語』『フランス語』『中国語』『韓国語』	【筆記】15：10～16：30 【リスニング】『英語』のみ 17：10～18：10
第2日	理科①	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」	9：30～10：30
	数学①	「数学Ⅰ」『数学Ⅰ・数学A』	11：20～12：20
	数学②	「数学Ⅱ」『数学Ⅱ・数学B』『簿記・会計』『情報関係基礎』	13：40～14：40
	理科②	「物理」「化学」「生物」「地学」	2科目選択　15：30～17：40 1科目選択　16：40～17：40

課題研究×国内外研修×高校生シンポジウム

SGH推進委員会

甲南高校が文部科学省よりスーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定されて3年目に入りました。ここで改めて中身を見てみましょう。

【課題研究】

甲南高校は、SGH指定前から生徒が自分の進路先を考えながら興味関心のあることについて調べ、論文形式にまとめて書くことをしていました。これをバージョンアップさせたものがW-KIです。研究テーマは、社会で解決を求められている課題を生徒1人1人が探して決めています。書物からの知識だけではなく、現場を訪ねたり関係者と話をしたりするなどのフィールドワークをしています。生徒たちが研究したことを発表する発表会も複数回設定しています。最後に大学の卒業論文に準じた形でまとめ冊子にします。このように3年間を使って課題研究を段階的に行うことによって生徒は思考力・判断力・表現力を磨くことができています。

【国内外研修】

生徒が研究したことを学校内だけでなく、外に対して発表する場を設けました。これが9月の台湾研修2月の和歌山大学・広島大学研修そして3月の英国研修です。

海外では現地の大学院生や高校生を対象に英語による課題研究発表を行っています。和歌山大学・広島大学でも海外からの留学生も多く参加される中、生徒は英語も使いつつ自分の研究を発表したり、意見交換を行います。大学院生や教授陣が真摯に発表を聞き、意見や感想を言ってくれることに多くの参加生徒が感動しています。また、これを機会に新たな研究の方向性を見つけたりもしています。

定員が決まっているので選抜をしていますが、1年目から多くの生徒がチャレンジしてくれています。また、海外研修には費用面も含め同窓会がバックアップしてくれています。さすが甲南高校！

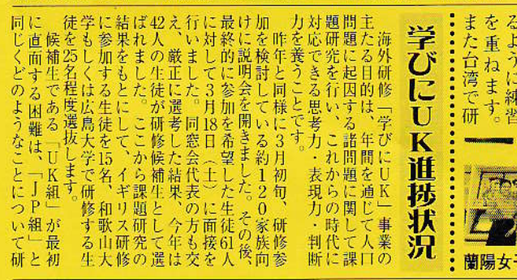
【高校生国際シンポジウム】

課題研究を発表するだけではなく同じ志を持った県内外の高校生徒が交流をする場をつくろうとしたことが始まりです。一般社団法人Glocal Academyと共催してサンエールかごしまで今年も開催しました。県内から6校、県外から5校60チーム、延べ400人を超える参加者がありました。著名な審査員の前で発表をすることは勇気もいることですが、このシンポジウムを通して生徒は多くのことを学んでいます。

他にも様々な取組があります。鹿児島大学との継続的な高大連携ができているのも甲南高校の特色でしょう。今年も生徒の活躍が楽しみです。

一年ミニブラッシュアップセミナー

一年生のW-KIでは課題学修と進路学習の二つを柱として進めていくが、進路学習の一環として、昨年度から引き続き、今年度も「ミニブラッシュアップセミナー」が実施された。鹿児島大学の法文・理・工・農の各学部から先生・大学院生を招き、「大学での学び」「高校と大学の違い」「進路選択において必要なこと」などを、大学の先生方の専門分野の話を交えて生徒に語っていただいた。生徒は自分の興味ある講義を二つ選択し、50分の講義を受講した。短い時間ながら、大学での学びを体験することで、現在学んでいる各教科の学修が大学入学後にどう生きてくるかを実感することができた。何より、大学で何を学ぶべきか慎重に選ぶ必要性を感じることが出来たようであった。各大学のオープンキャンパスの申し込みが始まったこともあり「進路研究のためにも多くの大学のオープンキャンパスに参加したい」という声も聞かれた。今回開催された講義と講師の先生方の一覧は次の通り。下桐　猛先生「遺伝を利用した動物の改良について」、藪田　伸先生「大学で学ぶ－広く学ぶ、深く学ぶ－」、新留　康郎先生「錬金術と化学」、甲斐　敬美先生「高校生の知らない化学工学の世界」、小野　智司先生「人工知能と人間の知能」、松永　千紗さん「大学での学び～教室の外へ出よう！～」、藤内　哲也先生「なぜ15世紀のヴェネツィアで黒人がゴンドラを漕いでいるのか？－絵画から考える歴史と社会」、松田　忠大先生「大学での学び－法学という学問を学ぶ」、大前　慶和先生「現代企業のマネジメントとエコスイーツ活動・ディズニーのマネジメントとホスピタリティ」



海外研修「学び台湾」視察旅行記

9月17日から1週間行われる生徒海外派遣事業「学び台湾」の視察として、6月13日から3日間台湾の台北と宜蘭を訪れました。「学び台湾」の目的は課題研究の途中経過を発表することと、フィールドワークを行うことです。研究の発表先及び交流相手である台湾師範大学と蘭陽女子高級中学では当日のスケジュールと当日までにしてくるべきことを確認し、フィールドワーク先であるウイスキー酒蔵や設治記念館では鹿児島との類似点や相違点を感じることができました。

3日間台湾を訪問して感じたことは、台湾は日本を愛してくれていて、日本語や英語を介して身振り手振りでコミュニケーションを図ろうとしたらどんなに直面する困難は、「JP組」と同じくどのようなことについて研究するか、課題研究テーマの設定のお手伝いをして頂きました。また、6月には今の3年生である「学びにUK」2期生との意見交換会を行い、テーマ設定からフィールドワーク、中間発表や最終発表の留意点や学業と部活、そして課題研究との両立の仕方などについて話を聞くことができました。同月に行われた鹿児島大学の先生方の指導助言会では大学の先生方から、理想だけでなく実現可能性があるテーマを決めること、自分の身近な問題から考えを広げていくこと、自分自身が楽しめる課題を選ぶことを教えて頂き、研究テーマ設定に際して大きなヒントを得たようです。並行して、UK組は児童労働やジェンダー問題など様々な社会的課題に英語を介して注目し、それに対して自分の考えを英語で表現するトレーニングを行っています。

7月末には自分たちの課題研究を今後どのように進めるかについて発表する、課題研究計画発表会を控えています。研修候補生として選ばれた喜びも束の間、テーマ決めや研究が思うように進まず悩み苦しみながらも、真剣に取り組んでいます。多くの人々が真面目に解決案を提案するということは、社会に貢献するということでもあります。自分の頭で考え、フィールドワークを行い、考え抜いた先に解決策を生み出すこのプロセスは貴重です。課題研究を通して様々な事を学び、今後に活かして欲しいと思います。

蘭陽女子高級中学にて

台湾師範大学にて

学びにUK進捗状況

海外研修「学びにUK」事業の主たる目的は、年間を通じて人口問題に起因する諸問題に関して課題研究を行い、これからの時代に対応できる思考力・表現力・判断力を養うことです。

昨年と同様に3月初旬、研修参加を検討している約120家族向けに説明会を開きました。その後、最終的に参加を希望した生徒61人に対して3月18日（土）に面接を行いました。同窓会代表の方も交え、厳正に選考した結果、今年は42人の生徒が研修候補生として選ばれました。ここから課題研究の結果をもとにして、イギリス研修に参加する生徒を15名、和歌山大学もしくは広島大学で研修する生徒を25名程度選抜します。候補生である「UK組」が最初に